「学生によるミタカ・ミライ研究アワード 2020」申込書

「学生によるミタカ・ミライ研究アワード 2020」において、下記のとおり自らの調査研究を発表したいため、募集要項に基づき応募します。

研究テーマ	ソーシャル・キャピタルと地域防災 —共助コミュニティとしての近隣住民組織の可能性—
-------	--

◆応募者（応募代表者）

(フリガナ) ナカタ ユキ	大学名、学部名、ゼミ名(あれば)
氏名 中田 有紀	国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 公共政策メジャー 西尾隆教授ゼミ

◆共同提案者

氏名(フリガナ)	大学名、学部名、ゼミ名(あれば)

◆研究の動機、テーマに関する考え、研究計画・手法などを、600字以内で記載

本研究のテーマ設定の動機は、大学四年間を通じて、勉学と諸活動の軸であった「三鷹市」と「防災」に関わる研究を行いたいと考えたからである。具体的な動機が二点挙げられる。第一に、大学でコミュニティ防災（共助）とまちづくりについて学んできた経緯があるからである。第二に、三鷹市を中心に活動する市民団体「やろうよ！こどもぼうさい」の一員として、防災の現場に参加させていただく機会があったからである。

本研究は、ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）という概念を用いて、三鷹市のコミュニティ防災力向上の可能性を見出すことを目的とする。市民間で醸成されるソーシャル・キャピタルは、信頼・互酬性・ネットワークの三要素から構成され、防災力の向上に寄与することは既に先行研究で証明されている。近隣住民組織（自治会・町内会）がコミュニティ防災に取り組む上で有効な単位ではないかと考えたため、近隣住民組織内において醸成されたソーシャル・キャピタルとその効果を明らかにする。

研究手法として、三鷹市内にある防災を活動の中心とする町会に焦点を当て、インタビューを中心に単一事例研究を行う。その際、コミュニティ住区に着目することも不可欠であると考えたため、七つのコミュニティ住区単位での防災に関する取り組みも研究の対象とする。最終的に、近隣住民組織において期待される共助のあり方を模索し、三鷹市政への提案へと導きたい。